

きたのしょうじょう

# 北庄城の落城

## 柴田勝家らにまつわる

### 数々の悲劇

**賤**ケ岳の戦いで羽柴秀吉軍に敗れた柴田勝家は北庄に敗走し

ます。勝家の妻、お市とともに北庄城で自害したことは有名ですが、落城の際、実はその他にも、勝家と関係する人物にまつわる悲劇が起っていました。

そのひとつは、お市と前夫、浅井長政との間の娘である三姉妹（茶々・初・江）にまつわるエピソード



三姉妹の像  
(北の庄城址・柴田公園内)

ドです。秀吉軍が城を囲んだ夜、勝家はお市と三姉妹に別れを告げようとすると、お市は「自分が城を出ることは思いもよらないが、三人の息女は城から出して父（長政）を弔ってもらいたい」と言い、勝家はその旨を三人に言い聞かせます。長女の茶々はそれを拒否し、母上と同じ道をいきたいと悲しんだものの、それは聞き入れられることなく三人を城から出したと伝わっています（『太閤記』）。また、勝家は三人を秀吉の陣所に送る際、三姉妹は長政の子で、信長公の血縁でもあるのでよろしく取り計らうようにとの手紙を書き添えると、秀吉も「決して疎かにしないので安心せよ」と返事したといわれています（『賤獄合戦記』）。しかし、

その後、三姉妹はそれぞれ運命に翻弄されながら戦国乱世を生き抜いていくこととなります。

勝家は北庄城落城の直前に三姉妹を城の外へ逃れさせていますが、実は、勝家が城から逃した女性ほ他にもいました。勝家の姉、末森の方とその息女です。

勝家は家臣の上村六左衛門に彼女らの行方を頼み、竹田（現在の坂井市丸岡町）の山里まで逃げ落ちたといっています。竹田ではある草庵に隠れていましたが、北庄城の天守閣に火がかかり黒煙があがっているのを見ると、落城を察し、六左衛門は末森の方に覚悟を迫りました。彼女はそばにあった硯を引き寄せ「今ここに六十路あまりの日の数を ただ一時にかへしぬるかな」と詠むと、娘も「思ひきや 竹田の里の草の露 母上ともに消えんものとは」と辞世の句を詠み、六左衛門が介錯をして二人は果てたといっています（『太閤記』）。

その後、六左衛門は母子の亡骸とともに草庵に火をかけると、彼自身も腹を切り火中に身を投じたといわれています。彼はもともと北庄城で勝家とともに最期を迎える覚悟でしたが、勝家の命を受け、北庄城を離れた山里で、主君の身内の女性たち

を黄泉路にしかと送りました。彼は主君・勝家への忠義を最期まで尽くし死んでいったのです。

別れの悲しみ、自決の無念、主君への忠誠……。北庄城の落城には、様々な人物のそれぞれの思いが交錯しているのです。



柴田勝家肖像  
(福井市立郷土歴史博物館蔵)

#### 関連史料・ゆかりの地

#### 北の庄城址資料館



北の庄城址・柴田公園の一角にあり、柴田勝家が残した功績を紹介しているほか、北庄城に関する遺物や史料も展示されています。

【住所】福井市中央1丁目21-17（JR福井駅より徒歩7分）

#### 参考資料等

足立尚計『ふくい女性風土記』日刊県民福井・中日新聞福井支社  
小野之裕『柴田勝家と支えた武将たち』ゆいぽと